

一般質問



わかすぎ てるひさ
若杉輝久議員
公明党議員会



書かないワンストップ窓口の導入を

Q 市民が申請書等を書くことなく、身分証明書等に基づき作成された書類の記載内容等を確認することにより、交付書類を受け取ることが出来る書かないワンストップ窓口を導入できないか。

A 書かないワンストップ窓口を導入した場合、各種の申請を一つの窓口で行うことができ、何度も同じことを書く手間の軽減や、手続時間・待ち時間の短縮、窓口を回る数の削減など様々なメリットがあり、担当する職員においても、手続の標準化による業務の効率化が図られます。

自治体が担う業務が増加する中、行政のデジタル化は不可欠となっていることから、市民等の利便性向上と併せて、業務の効率化を図るため、令和5年度中に書かない窓口の環境整備を行った上で、書かないワンストップ窓口の導入につなげていきます。

(副市長)

化学物質過敏症の症状の理解促進を

Q 化学物質過敏症の罹患者の中には、その症状について周囲の理解不足により、つらい思いをしている人がいることから、市民に対し理解促進につながる広報に取り組みないか。

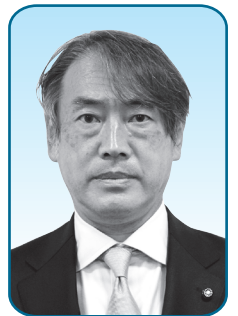
A 化学物質過敏症への対応は、有害因子あるいは誘発する可能性がある化学物質に近づかないこと、早期に離れること、滞在する時間を短くすること、使用を控えることが有効な手段となっています。生活に身近な疾患であり、誰もが発症する可能性があることから、本市としても市民の皆様を理解を深めていただき、周囲の理解や協力が得られるよう、市ホームページ等を活用し、正しい情報の提供、普及啓発に努めていきます。

(健康福祉部長)

質問の主な項目

- ・ 歴史的資料の保存・活用について
- ・ 消防本部の体制について

など



おがさわら ひろし
小笠原浩議員
市民と共に



若者・子育て世帯の移住・定住施策

Q 市内事業所に就職し、本市に定住する若者・子育て世帯に住宅補助を行い、若者・子育て世帯の移住・定住を促進する考えはないか。

A 現在、結婚新生活支援事業補助金や東京圏U・J・ターンの移住支援事業補助金を実施しており、必要に応じて見直しを行っています。

さらに、令和5年度には住宅取得費用に対する新しい補助制度として、一定の基準を満たした新築の戸建てのZEH住宅(ゼロ・エネルギーハウス)を取得し、その住宅に居住する方を対象に1戸当たり100万円を補助する「だつたら、さかいで本気でゼロカーボン生活応援補助金」を創設します。

新築の戸建て住宅の取得費用に対する補助制度は、若者・子育て世代にとつて、本市に移住・定住する動機づけとなり、将来の人口増につながるものと考えています。

(副市長)

JR坂出駅前に宿泊施設を

Q JR高松駅周辺で大型イベントが開催されたとき、JR坂出駅周辺は最適な宿泊地の一つとなることから、坂出駅周辺再整備においても宿泊施設の誘致は重要であると考えますが、誘致の可能性は。

A 今後、JR坂出駅前空間の再編を進めていく上で、優れた交通利便性も含めた駅前エリアが持つポテンシャルを最大限生かすために、市民や民間事業者との対話等を通じて、駅前における宿泊施設設置の可能性について検討していきます。

(政策部長)

